

令和2年度第1回仙台市廃棄物対策審議会 議事録

日 時 令和2年6月26日(金) 14:00～16:00

場 所 TKPガーデンシティ仙台 ホール21CD

出席委員 久田真会長、松八重一代副会長、浅野郁子委員、遠藤智栄委員、小沢晴司委員(代理出席)、齋藤優子委員、齋藤孝三委員、佐藤貞子委員、塩谷久仁子委員、庄司俊充委員、菅原博委員、鈴木公至委員、多田千佳委員、千田恵委員、橋本啓一委員、吉田美緒委員 以上16名

欠席委員 大内利通委員、坂上温香委員、三田恵介委員、渡邊浩一委員 以上4名

事務局 環境局長、環境局次長、環境部長、廃棄物事業部長、施設部長、総務課長、廃棄物企画課長、家庭ごみ減量課長、事業ごみ減量課長、事業ごみ減量課指導担当課長

傍聴人 2名

次 第 1 開会

2 議事・報告事項

次期「仙台市一般廃棄物処理基本計画」について

3 閉会

議事要旨

発言者	議事要旨
久田会長	<p>今回は、次期一般廃棄物処理基本計画の中間案の素案について、主に議論していただく。計画の骨子になる部分で特に大切な議論となる。委員の忌憚のない意見をお願いしたい。</p> <p>それでは事務局より、資料１・２について説明をお願いする。</p>
廃棄物企画課長	<p><資料１・２に基づき説明></p>
齋藤優子委員	<p>バランス良く網羅的に取り上げている計画案と拝見した。資料１の「５．基本方針と施策体系」に書かれている「基本方針３ 安全安心かつ安定的な処理体制の確保」に、最近の新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえたかたちで、「施策７ 災害や感染症等に備えた自己完結型処理体制の構築」と掲げていると思うが、災害廃棄物では広域処理の観点も必要であり、災害廃棄物処理と感染症対策を一括りに自己完結型処理体制としてしまうのは齟齬があるのではないか。</p>
環境局長	<p>新型コロナウイルス感染症が蔓延した場合、残念ながら他都市等からの受援が難しいことから、自己完結型の処理体制を確保しなければならないと捉えている。</p> <p>一方で、東日本大震災等の大規模な災害の場合は、全国各地から応援をいただいたほか、西日本豪雨の際に応援職員を派遣するなど、支援の実施や広域処理の必要性があるものと認識している。</p> <p>また、首都圏の大都市においては、同等規模の施設を持ち合わせている自治体が近接しており、仮にどこかの大都市の焼却工場が災害等で稼働できなくなった場合でも相互補完が比較的容易であるのに対し、仙台市は大規模な焼却工場を持っているが、近隣市町村に代替施設がないという事情がある。</p> <p>このような背景を踏まえ、平常時から自己完結型の処理体制を確保していくことが求められるとの認識のもと、施策７の表記としている。</p>
齋藤優子委員	<p>広域処理も含めた施策となっていることは理解したが、施策７の表記をそのことが分かりやすく伝わるような表現にしていくと良いと思う。</p>
久田会長	<p>ただいまの質疑に関して言うと、自己完結型と書くと閉鎖的なイメージを持たれてしまうのではないかと懸念する。一般廃棄物の処理は、大規模災害でも感染症対策でも市域内処理が前提と考えられている一方、東日本大震災の際には膨大な廃棄物を広域的な応援を受けて処理したことや、昨年の水害では他市町村のごみを受け入れた経験が事実とし</p>

久田会長	<p>である。</p> <p>自立した処理体制を保たなければならない要素と、広域的な処理の必要性が読み取れ、機に応じて柔軟な体制で取り組む表現にしてもらえると齟齬がなくなるのではないかと思う。</p>
齋藤優子委員	<p>会長のいう柔軟な対応という表現に賛同する。</p>
久田会長	<p>中間案のまとめの際に参考としていただきたい。</p> <p>その他に意見はないか。</p>
松八重副会長	<p>資料2の基本目標について、「基本目標④ 家庭ごみに占める資源物の割合」や、「参考指標③ 家庭系食品ロス量」の新規設定については、他都市にはあまり見られない目標で、かなり野心的な試みと感じられる。特に基本目標④については、あまり表に出ていなかったと思うので、家庭ごみに占める資源物の割合について、再度詳しく説明をお願いしたい。</p>
廃棄物企画課長	<p>毎年定期的実施している組成調査結果に基づき、本審議会においても報告しているものである。</p>
松八重副会長	<p>ここにいる委員は毎年報告を受けているが、市民によってはかなりショックな数値であるとも思われる。また、きちんと分別に協力いただいている地域とそうではない地域ではかなり組成も異なると思うので、サンプリングによる結果であることや、きちんと分別している市民に誤解を与えないためにも、情報の出し方を工夫してほしい。</p>
廃棄物企画課長	<p>この目標を設定した趣旨や市民一人ひとりの分別意識向上につながるよう十分考慮して示していきたい。</p>
橋本委員	<p>現行計画の総括については、基本目標の評価と現行計画から見えてきた課題等の記載はあるが、もう少し詳しく説明いただきたい。</p>
廃棄物企画課長	<p>現行計画の総括については、これまでの審議会で個々の取り組み状況、効果や検証について説明してきた。本日の資料1は基本目標の達成状況と従前の取り組みから見えてくる課題等を整理した構成としたが、中間案には現行計画の総括についても詳しく掲載する。</p>
橋本委員	<p>「国内外の動向」の箇所に記載のあるSDGs等が、次期計画の取り組むべき課題にどのようにつながっているのかが見て分かるような中間案であることを期待する。</p> <p>また、今般の新型コロナウイルス感染防止対策がごみ処理に与える影響等を踏まえた上での目標数値もあり得るかと思うが、どのように考え</p>

橋本委員	<p>ているのか教えてほしい。</p>
廃棄物事業部長	<p>基本目標の設定の考え方については、先ずはごみの発生そのものを減らしていくこと、次に分別の徹底等で資源化できるものを増やすことで最終処分量を減らすという視点から「ごみ総量」と「最終処分量」を掲げている。その上で、本計画は行政と市民が一体となって取り組んでいく必要があることから、市民にとって身近な目標として、「1人1日当たりの家庭ごみ排出量」と「家庭ごみ占める資源物の割合」を設定した。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染防止対策による生活様式の変化等がどのようにごみ量に影響してくるのかについては、予測が困難な部分もある中で、ごみ減量や分別による資源の有効活用等は引き続き行っていく必要があると考えており、啓発の方法に工夫が必要であるが、市民一人ひとりに資源物が家庭ごみにまだまだ含まれていることを認識していただき、ごみ減量等のモチベーションにつなげていくことが重要と考えている。</p> <p>数量的な目標値については、これまでの実績等を基準に設定しているが、特に今後の10年は見通しが難しいと思っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止対策による経済活動や日常生活の変化にどのような影響を及ぼすかについては、中間見直しを含め、毎年の実績を丁寧に見ながら逐次対応してまいりたい。</p>
橋本委員	<p>排出されるごみを減らす取り組みも大事な取り組みであるが、ごみとなるような製品を作らないこと、使わないこと、買わないことなど、生活者として考えていかなければならないという視点も必要ではないか。</p>
齋藤孝三委員	<p>新型コロナウイルス感染防止対策の影響で、自社で回収した1団体当たりの集団資源回収の回収量が前年度は平均で1,453 kgだったのに対し、今回は990 kgとなっている。その資源物が家庭ごみとして出されているのか、紙類定期回収や拠点回収に回っていれば資源物として回収されているので問題ないが、どこに流れているのかが分からない状況である。最近はスーパー等でポイント還元型の回収を行っている店舗も多くなっており、こうした取り組みの利用を促進していくと良いのではないか。</p> <p>また、先ほど自己完結型の処理体制の話があったが、新型コロナウイルス感染症の影響で一つの収集業者が機能しなくなった場合でも安定した収集体制を確保するため、仙台市の指導のもと、委託業者や許可業者の相互的な収集システムを構築する必要があると思う。</p>
廃棄物事業部長	<p>集団資源回収については、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえ、人との接触をできるだけ控える状況下で、活動を自粛している団体があることは認識しており、流行時期の家庭ごみ量は昨年同月比で増加した</p>

<p>廃棄物事業部長</p>	<p>ことも確認している。ステイホーム等によりごみ量が増加することは避けられない部分がある一方で、資源物が分別されずに家庭ごみに出されてしまうことを懸念しており、どのような状況下でも資源物の分別徹底は啓発していかなければならない。</p> <p>また、自己完結型の処理体制については、地力を付けるという意味合いがあり、大規模災害等においては協力し合い広域的な処理が必要となるが、今回の感染症の流行下では移動制限がかかることもある。大規模災害が発生した時に仙台市が広域的な処理を含めて地力を大きくしなければならぬと考えると、決して閉じこもって自分のごみ処理をしていれば良いだけではなく、自分たちのごみは自分たちできちんと処理しつつ、応援できる体制も構築したいとの思いで、あえて自己完結型と表記したという背景がある。この部分については、本日の議論を踏まえ、その意味が分かるような表現にしていきたいと思います。</p>
<p>庄司委員</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止対策の影響で自宅待機が多くなり、片付け等で不要なごみを出す人が多く、ごみ量は増加しているだろうと思っている。また、集団資源回収では、古紙の買取価格が安価になってきており、活動資金等の減少で担い手不足であるという話も聞こえてくる。このような状況で、いかにモチベーションを上げていくかも考えなくてはならないと思う。</p> <p>また、レジ袋の有料化が7月からスタートするなど、社会の変化に合わせた取り組みになるようお願いしたい。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>今回の新型コロナウイルス感染症の影響で、注意していかないといけないと感じているところは、世界的にサプライチェーンが停滞するといった事象が発生するなど、初めて経験した流行下での大混乱であったということであり、今後、落ち着いてきた後の生活スタイルがどうなるかだ。そのような状況下で、計画を策定するにあたり新しい生活スタイルがごみの排出量や排出傾向にどのように影響を及ぼすかを考えていく必要があると認識しており、社会の変化に対し様々な工夫や柔軟な対応で取り組んでいくことが今まで以上に求められていると考えている。</p>
<p>庄司委員</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止対策の関係で飲食店や学校給食が休みになり、食品廃棄物自体は減っていると思う。食品ロス削減も大事な取り組みだと思っているが、食品廃棄物のガス化や堆肥化の推進も必要な取り組みである。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>食品廃棄物は飲食店等の外食産業の休業で一時期減少したが、飲食店等の再開もあり徐々に排出されている。</p> <p>また、残った食べ物のリサイクルは、バイオマスをはじめとして様々あり、調理くず等は必ず出てくることから、こうしたものの有効利用も</p>

<p>廃棄物事業部長</p>	<p>重要と考えているが、一方で手付かずの食品や食べ残しを減らす食品ロス削減の取り組みはごみ総量の削減に直結する重要な施策と考えている。</p>
<p>久田会長</p>	<p>つづいて、資料3について事務局より説明をお願いします。</p>
<p>廃棄物企画課長</p>	<p><資料3に基づき説明></p>
<p>久田会長</p>	<p>上位計画との位置づけであるとか、本計画の理念的な部分を明確にしておきたいと思う。2ページ目に記載している視点について、「市民・事業者・市の連携」は誰がやるかということであり、目指す方向として「環境への配慮」や「学び・考え・行動する人づくり」があると思う。環境への配慮については、上位計画の「“The Greenest City” SENDAI」という理念があるわけだが、どこかに「杜の都」を将来にわたって持続可能なものにしていくとか、そこに住んでいる私たちが豊かになる、心が豊かになるといったところに本来の目標があるのではないか。つまり環境がクリーンになり、資源循環が成され、最後はそこに住んでいる私たちが幸せになるというのが目標だと思うので、仙台に住んでいることが誇りに思えるようなニュアンスの言葉が入ると良いと思ったが如何か。</p>
<p>廃棄物企画課長</p>	<p>本計画の基本的な考え方は、廃棄物処理をどうするかというところが強く、持続可能な資源循環型都市を目指すということで議論しているところだが、まだ十分に表現し切れていないところもある。SDGsの考え方と同じで、持続可能な資源循環とは、ごみを減らし、資源を循環しながら、人も豊かになっていく、社会も豊かになる、経済も活性化するという視点が必要と考えている。表現については検討していきたい。</p>
<p>松八重副会長</p>	<p>「施策4 社会環境の変化への対応」のところでは、元々これから先の10年を見据えた長期的な計画として策定しているため、直近の新型コロナウイルス感染防止対策であるとか、新しい生活様式のような言葉を盛り込むのは難しいかと思うが、少子高齢化への対応であるとか、世帯構成の変化によって生活スタイルが変わってきており、宅配利用や中食の増加によるプラスチック容器の増加や、通信販売等で段ボールやプラスチックの緩衝材が多く排出されるなど、社会変動として捉えておくべき点がある。</p> <p>また、人の移動を控えるため、単身赴任を減らし在宅勤務に変える企業もあるなど、自宅がスモールオフィス化することも想定され、そこで発生する廃棄物の処理の問題など、新型コロナウイルス感染症が生活様式の変化を加速したことは間違いなく、その点を考慮していくことは必要ではないか。</p>

<p>廃棄物企画課長</p>	<p>新しい生活様式による、生活や消費行動等を踏まえた施策や取り組みは計画に記載していきたいと思う。</p>
<p>久田会長</p>	<p>新型コロナウイルス感染症、少子高齢化、単身世帯の増加も生活様式の変化と言える。括り方の工夫はあるとは思いますが、施策4に盛り込んでいくことが望ましいと思う。</p>
<p>遠藤委員</p>	<p>最近、道端にマスクが落ちているのをよく見かけるようになった。仙台市は幸い感染のリスクが抑えられているが、落ちているマスクが感染者のものである可能性も考えると、それを処理する方が感染することや収集作業員に感染することも想定される。こういった対策も踏まえた、生活様式の変化への対応を醸し出すような頭出しの工夫をお願いしたい。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>基本方針2の施策3・4に関わるところで、社会での何らかの事件や出来事が消費行動に影響したり、有名人やアイドルの購買行動が消費行動へ影響を与えることもあり、社会が変化している渦中にあるからこそ、市民の行動変化が起こりやすいと思う。一人ひとりの気持ちとごみと行動はつながっていると思うので、もう少しきめ細やかに社会で何かが起こっているときに情報を発信する等の施策や取り組みについて記載があっても良いと思う。</p>
<p>久田会長</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の流行下においては、SNSを中心に医療の専門家であるとか、政府などが専門家と一緒に発信するというような、これまではないような情報発信が行われることで、ステイホームにみられるように市民国民の行動変容が急速に進んだことが、流行が一旦落ち着いた要因になっていると思っている。タイムリーな情報発信をすることが理想だが、行政にとって苦手なところでもあり課題として捉えている部分である。</p>
<p>多田委員</p>	<p>廃棄物行政に関しても、場合によっては即アクションであるとか、時間をかけた方が良い場合もあると思われるので、例えば、施策3の頭出しのところに「きめ細やかな情報発信と排出ルールの徹底」とあるが、「きめの細かさ」と「迅速な」というようなエッセンスを入れると遠藤委員のご要望にお応えできるのではないかなと思う。</p>
<p>多田委員</p>	<p>基本目標と基本方針とのつながりが分かりづらい。どちらが大きい目標なのか。基本目標はみんな数値になっていて、基本方針は概念的なところや計画の理念が書かれているが、関連性が専門の人には分かるが市民には分かりにくいのではないかな。自分の行動が数値目標のどこにつながっていくのかということ、各施策がどこの目標値を達成するため貢献するのかがはっきりと分かる見せ方が必要であると感じた。</p>

<p>廃棄物企画課長</p>	<p>基本目標はごみの減量やリサイクル等の最終的な数値目標を掲げている一方、基本方針は基本目標を達成するための3R等の取り組みのほか、廃棄物の安定した処理体制をどうするか、次の担い手を育成するといった施策の方向性で、直接は目標達成につながるものだけではない。</p> <p>基本目標の達成につながる基本方針としては、基本方針1と基本方針2が目標数値に反映してくるものとなる。</p>
<p>久田会長</p>	<p>中間案の審議時には、計画の記載が具体化され、階層構造や目標と方針の関係性が明確になれば、多田委員のモヤモヤ感は払拭できるのではないかと。上位には、仙台は将来どうなりたいのかという基本計画があって、それに基づいて、本計画等の様々な分野の計画がある。本計画では、目指すべき方向という基本的な考え方のもと、それを達成するために実際に何をやるかが3つの基本方針と7つの施策であり、その施策をやれたかやれなかったかを指標として表すためにあるのが目標値になる、といったことが分かる構成にしていきたいと思う。</p>
<p>廃棄物企画課長</p>	<p>市民の方に読んで分かっていただける計画となるよう、次回の中間案審議までに工夫してまいりたい。</p>
<p>菅原委員</p>	<p>様々な数値目標を掲げて、その達成に向けてどのような取り組みを行っていくのか議論しているところだが、毎朝散歩していると国分町周辺は特に生ごみがカラスによって散らかされ、飛散している現状がある。そういった街の景観を損なうことのないような対策も計画には位置付けていく必要がある。</p>
<p>廃棄物企画課長</p>	<p>ごみ集積所については、カラス等による散乱や不法投棄、臭いの問題等様々ある中で、その対策について常に課題認識しているところである。環境事業所を中心にクリーン仙台推進員や地域の方々の協力をいただきながら課題解決に向けた対策を講じており、次期計画でも施策4や施策5にきちんと明記し、美しい景観を保てるよう努めてまいりたい。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>新型コロナウイルス感染症流行の渦中、子供から大人まで、ごみ収集の方に感謝する手紙が届けられるなどの新聞報道を拝見した。医療従事者や清掃業者が感染のリスクがあるにも関わらず、それぞれの現場の最前線で働いていただいていることに関心が高まっている。こういった機運の中で、ごみの出し方等に関する関心も高まっているのではないかと考えている。</p>
<p>廃棄物企画課長</p>	<p>報道されているが、本市の委託業者にも感謝の手紙や手作りのマスクが届けられるなど、従事する作業員の励みとなっている。</p>

庄司委員	町内会に入らず、ごみ集積所を利用する方が増加していることも問題としてあげられる。地域コミュニティの持続や地域で抱える問題について、どのように行政が関わっていくのかについて見解があれば教えてほしい。
廃棄物事業部長	<p>これまでごみ集積所に限らず地域の様々な部分で、町内会をはじめとした地域コミュニティが担い手となっているが、少子高齢化の進展で地域コミュニティ自体にも様々な影響が生じていることは認識している。</p> <p>個々のごみ集積所の問題については、環境事業所を中心に町内会の方々、アパートであれば不動産業者の方と連携し解決に向けた対策を講じているが、高齢化の進展や町内会の担い手が減少していることを踏まえ、次期計画でもしっかりとその対策について検討していかなければならないと思っている。</p>
久田会長	<p>ここで今日の審議は終了としたい。円滑な議事運営の協力に感謝する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>